

会員の皆様、こんにちは。強い絆の下、平成24年度が始まりました。私はそのスタート・ダッシュに出遅れてしまい、よし、旧正月からだと思っていたら何と3月号の編集後記を書いています。3月という平成23年度の年度末の最後の編集後記になります。何かよく分からなくなりますが、終わりも無い、始まりも無い状態、ここ最近とはんでもない変化の年だなと感じませんか？

数年前から私は日本経済新聞の1月1日発刊の第一面をととても楽しみにし、その年の行動目標の基盤にし、考え方を整理していきます。ただ、如何せん小さなクリニックの一開業医にて大きなことが出来るわけでは無いのですが…。

今年の1月1日、日本経済新聞の一面、表題は、「開かれる知 つながる力」、副題に、動き出す「チーム・グローバル」。20年後。幼い子供は社会人となり、20代の若者は社会のけん引役になっている。次の世界の世代の描く未来図はどんな形だろう。日本と世界は大きく変わっているはずだ。と始まっています。実際、私自身振り返ると、20数年前にマックの箱型のパソコンを始めてみた時、「何、これ？」と思った時から、現在、20億人がネットを使い、私のポケットにもスマホがある時代になっています。

医療業界もその波を避ける事は出来ない、ではありません。医療業界はその最先端のハイテク産業の最先駆者なのです。我々医師会もそれを確りと認識し、世界に誇る国民皆保険制度を堅持しながら、グローバル化に耐えうる組織作りが必要だと新聞を読みながら思いました。

さて、沢山の記事・報告事項の中から選抜され、日本の医療を守る総決起大会、県医師会医学会総会、県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式の報告が記載されています。内容濃くぜひ御一読下さい。会報座談会「大規模災害にどう備えるか」現実起こった問題に、いつ、何

が起きても大丈夫なシステム作りを積極的に進めようと言う玉井先生の結びの言葉が印象的でした。「里見進先生東北大学総長ご就任激励会」は参加された多くの会員の先生方に勇気と誇りを与える内容でした。生涯教育では、「薬による悪性症候群、錐体外路症状の現状」について、耳の日に因んでは「人口補聴器の進歩」について、また、こどもの予防接種週間に因んで、世界結核デーに因んで等、分かり易くレベルの高い内容で勉強になりました。プライマリ・ケアコーナー：口腔癌に対する歯科でのプライマリ・ケアは、つい最近有痛性の大きめの見た目、難治性の口内炎にしか見えない口腔癌を見つけたばかりでしたので興味深く拝見しました。いつも楽しみにしているインタビューコーナーは、今回は沖縄県産婦人科医会会長佐久本哲郎先生です。毎回生の現場の声が聞こえ新鮮です。石川先生の本の紹介、隠れた脳、面白く読ませて頂きました。無意識の自分の言動、全く自信ありません。

医師会の広報委員として、査読の時間の捻出に苦労しているのですが、読みきれた内容の報告・記事・論文に関して常に凄いなといった印象を持っています。私は、実は、いつも広報委員会に出席して楽しみにしている事が在ります。表紙の写真の選定です。本当に素晴らし写真ばかりです。毎回、挙手でその月の写真を多数決で決めるのですが、結構楽しいです。自分の推選する写真が決まっても、決まらなくてもどうでも良い事で、推選する先生のうんちくが結構面白いです。

医療業界は今後も揺れ動き、大変な時代のまま推移して問題山積しておりますが、会員の皆様の更なる発展を期待しております。

広報委員 玉城 清酬